

福島第一原子力発電所 1号機および3号機 原子炉格納容器における水位低下について（続報）

< 参 考 資 料 >
2 0 2 1 年 6 月 4 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

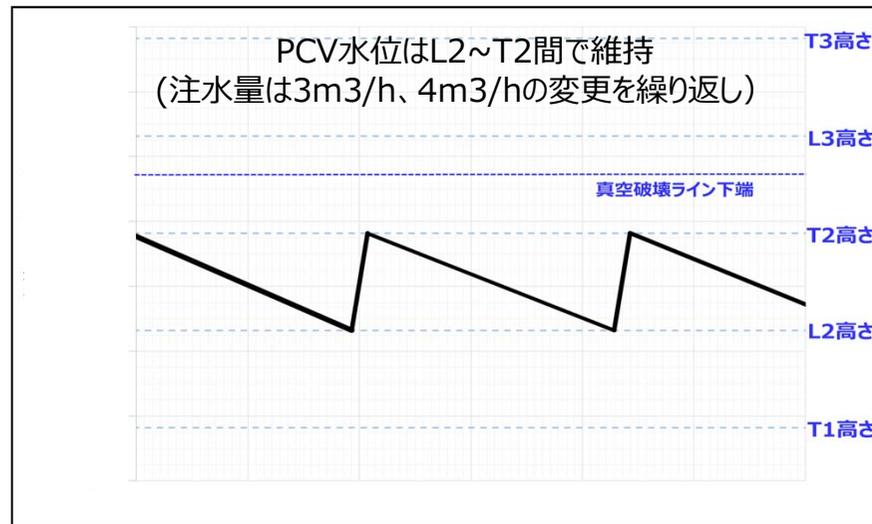
- 1号機原子炉格納容器（PCV）水位については、2月13日の地震以降、水位が緩やかに低下傾向を示しています。
- 1号機のPCV水位の測定は、一定の間隔（30cm）で設置された水位計や温度計にて評価しており、連続的に監視する手段がなかったことから、連続した水位監視のために追設した圧力計による水位評価により、PCV水位の傾向把握が可能か検証を行ってきました。
- その間、PCV水位については、水位監視の観点から温度計T2～水位計L2の範囲で水位を維持することとし、注水量（3m³/h、4m³/h）を変更し、水位変動の傾向についても把握してきました。
- 追設した圧力計による水位評価については、検証の結果、注水量の増加、減少に応じたPCV水位の傾向把握（水位の上昇・下降傾向）が可能と評価したことから、6月4日より運用を開始するとともに、6月7日より、現状の注水量4m³/hからPCV水位を安定させるための注水量3.5m³/hに変更し、真空破壊管ベローズ（伸縮継手）下端付近以上の水位で管理してまいります。
- また、PCV内圧力については、PCV水位を漏洩が確認されている真空破壊管ベローズ（伸縮継手）下端より上で管理することから、大気圧よりも高い値（1kPa前後）となります。
- なお、PCV内の燃料デブリを安定して冷却できていることを確認しており、温度や原子炉格納容器ガス管理システムの放射能濃度などのパラメータに有意な上昇はありません。また、PCVから漏洩した水は、原子炉建屋で受けており、建屋外への漏洩がないことを確認しています。

【PCV水位の安定のための注水量目安】

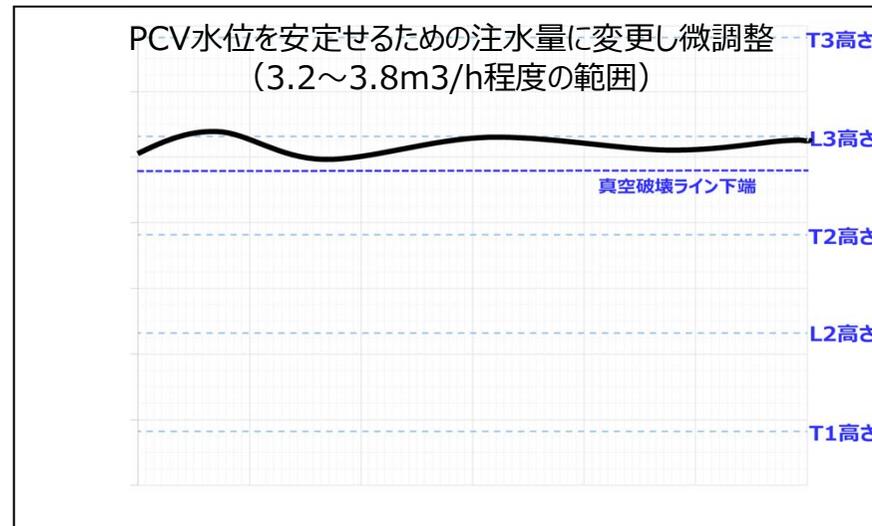
- 実施日 : 6月7日
- 変更後の注水量目安 : 3.5m³/h （注水量を3.5m³/hに調整後、PCV水位の傾向を見ながら、注水量を微調整し、水位を安定させていく）

(参考)PCV水位のイメージ

(変更前)



(変更後)



(参考) 当面のPCV水位の目標

- 当面のPCV水位の目標は真空破壊管ベローズ（伸縮継手）下端付近以上とする

